

木工事 共同住宅

(1) 住戸タイプ内訳

タイプ・型	専有面積	戸数
A	95.6 m ²	12 戸
B	86.6	12 戸
C		16 戸
D		16 戸

(2) 施工方針

1) 工事の進め方

1 階は材料置き場などに使用
1 フロア 6 住戸なので 1 住戸
その階が完了したら直上階の
(大工は各階同じ位置の同じ
1 住戸当たり標準で 13 日を
1 階部分については、別の
2 階の最初に施工する住戸
また納まり関係等をよく打

2) 墨出しおよび養生

墨出しは基本墨(レベル墨と
トの墨は木工事施工者が出
行う)
床・框・柱・枠・額縁等の養生

3) 現場加工

木工事の現場作業を少なくす
とする。
出入口枠など、造作材は工場
建設廃棄物の減量化に一役

4) 木工事着手前の確認事項

床コンクリートに高過ぎる釘
上階スラブからの漏水がある
設備配管、ユニットバス配管
設備床埋設配管の位置のマ
作業床の清掃および水たまり部の処置

は 2 階からに入る。

6 人で施工する。

る。

っていくことになる)

まで 3.5 ヶ月の工程とする。

との取り合いや施工図で表しにくい箇所、
を進める。

」で出し、間仕切り墨と床アンカーボルト
施工する大工以外の墨出し大工が事前に

元請けで行う。

するために木材は可能なかぎり工場加工

行う。

(3) アンカーボルト施工

アンカーボルトは、エポキシアンカーを用いる。

アンカーボルト施工は「組」が行う。(事前に引張試験を行う)

ピッチは間仕切@900、床大引@750 とする。

(4) 材料品質

- 1) 見えがかり面を有する木材は、日本農林規格材又は日本農林規格相当品とする。
- 2) ラワン材は、「製材の日本農林規格 (JAS) による防虫 1 種処理材」を使用する。
- 3) 木材の含水率は、現場搬入時に構造材 (下地材) 20% 以下、造作材 18% 以下とする。
- 4) 南洋材 (ラワン含む) は、日本農林規格防虫 1 種処理材とする。

(5) 木材および副資材の材質

1) 構造材・下地材 (見えがかり面を有する)

使用箇所	樹種	寸法	備考
土台・大引	米		荒木のまま
根太・際根太・束	米	40×36	上下面プレーナー
間仕切柱	米	36×36	対面プレーナー
胴縁	米	15×45	片面プレーナー
土台下パッキン	米	25×90	

2) 造作材 (見えがかり面を有する)

使用箇所	材種	寸法	仕上がり
出入口枠	米ヒ	施工図による	超仕上
浴室額縁	米ヒ	〃	〃
額縁	米ヒ	〃	〃
サッシ付き寄せ	米ヒ	〃	〃
巾木	ラワ	〃	〃
上り框	米ヒ	〃	〃
畳寄せ	米	〃	〃
付鴨居・廻り縁	〃	〃	〃
柱・半柱	〃	〃	単板貼り
押入れ前框・後框	〃	〃	超仕上
雑巾ずり	〃	〃	〃
帽子掛け	ラワン	〃	〃

3) 集成造作材

柱・半柱	台檜単板
敷居・鴨居	台檜単板
上り框	タモ単板貼り
中鴨居	杉集成材

4) 合板

含水率は、18%以下とする。

使用場所	種
畳下床	ラウ
押入壁	ラウ
〃 床	した
物入れ内部	ラウ
洗面床	フロ ンク
和室天井	

耐水等級
コンパネ
耐水 類
同 上
耐水 類
〇〇〇〇建材製

5) ボード類

使用場所	
間仕切壁	1
一般天井	1
和室天井	3

備 考
石膏ボード
〃
石膏テンパック

<https://www.sekouya.com>

6) 金物類

用途	品名	長さ	備考
大引固定用	アンカーボルト ナット	9 × 140mm	@750 以下
根太固定用		65mm	
床板固定用		45mm 38mm	合板、化粧フロア
枠固定用		75mm 65mm	ユニクロメッキ
付鴨居付固定用		50mm 45mm 38mm	ユニクロメッキ
サッシ額縁用		20mm	プラス(十字)
枠組立用		75mm 65mm	
畳下荒床用		45mm	
ボード張り用			ユニクロメッキ

鉄丸釘は JIS A 550
組立、取付けに使用す
釘の長さは打付ける材
木ネジは JIS 81135
け用には SUS304 の

示品とし、下地材取付および造作材の
SUS304 のステンレス釘を使用する。
する。

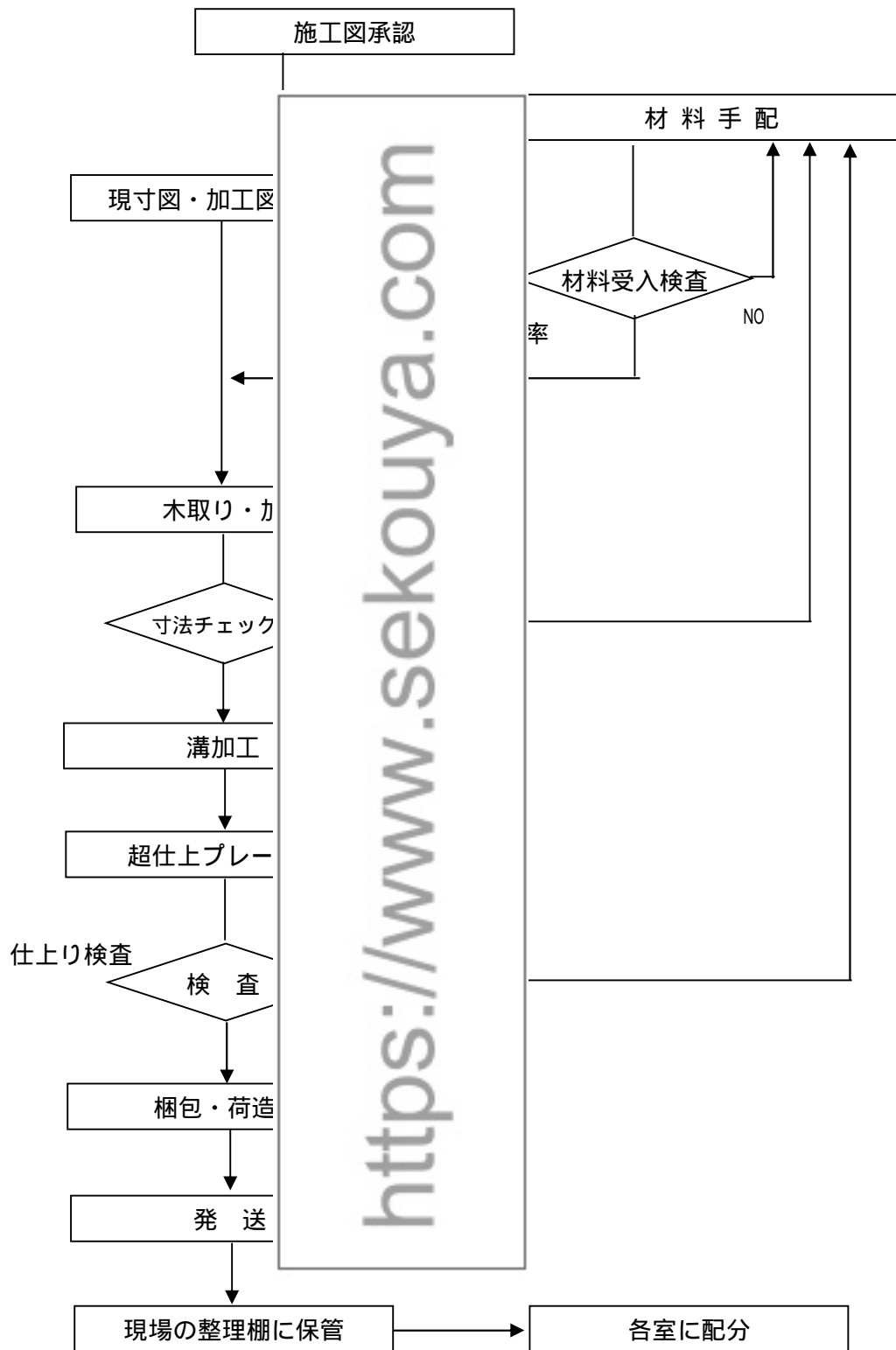
JIS 規格品とし、アルミサッシ額縁取付
ける。

7) 接着剤

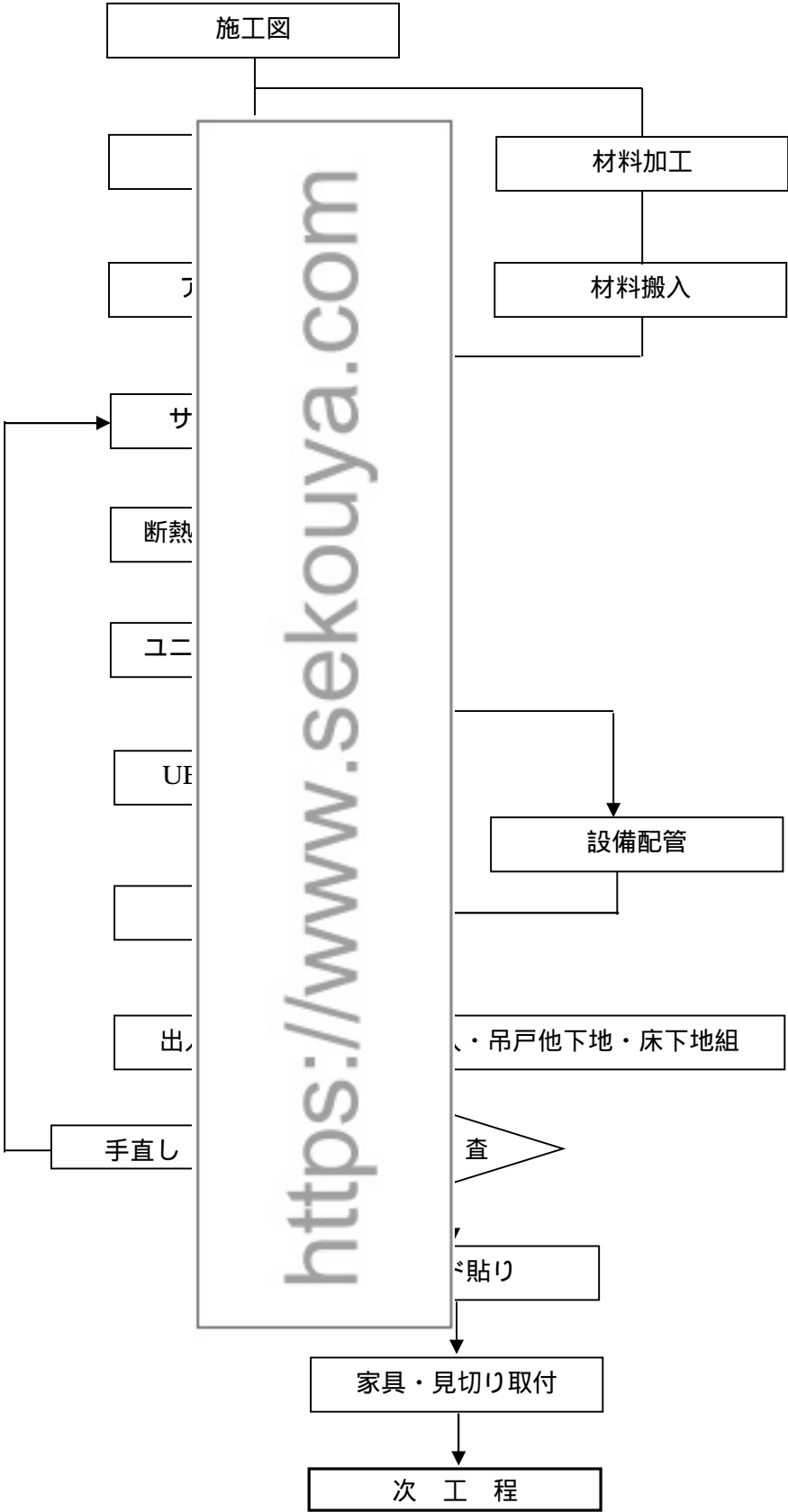
使用区分	商品名
コンクリート×木材	セメダインコンクリメント A
木材×木材	セメダインホワイト 605
コンクリート×直ベニヤ	セメダイン 515

木工用接着剤は JIS A5558 (空用接着剤) による JIS マーク表示品とする。
コンクリート用接着剤は JIS A5537 (木レンガ接着剤) による JIS マーク表示品とす
る。

(6) 造作材の加工 フローチャート



(7) 施工のフローチャート



(8) 搬入および保管

1) 材料搬入

造作材の一次ストック場所は1階の指定したスパンとする。
単管パイプにて棚をつくり、種類別に仕分けして仮置きする。
野物(構造材・下地材)は原則的には、搬入と同時に各戸に配置する。
不良と判定された材料は持

2) 荷揚げ

材料の荷揚げは人荷用エレベーターを使用する大工が行う。
ただし、荷揚げの日時などは事前に確認しておく。

3) 室内での材料保管(二次保管)

保管時に直斜日光、雨などが当たらないよう注意する。
作業のじゃまにならないよう注意する。

(9) 施 工

1) 床組

a. 土台・大引

防腐剤は JIS X2439 による。
コンクリートに接する部分にはアンカーボルトにて固定する。
大引レベル調整.....パツキ目調整
アンカーボルトは2度締め(最終日)時

(第1回目:床下地組時、大引の継手.....アンカーボルトは欠き継ぎ釘2本打ちとする。

b. 根太掛け

接着剤併用コンクリート釘は@303以下とする。

c. 根太

根太間隔@360(畳下)として大引にスクリーナ釘(L:40)を根太の継手.....原則としてやむをえず継手が生ずる場合はスクリーナ釘両面打ちとし、添木する。

きわ根太下には、450mm間隔で束は、防腐剤を塗布し、きわ根太に釘打ち固定する。

d. 床板張り

工事中は仮張りしておき、最終日アンカーボルト2度締め後、本張りとする。
コンパネのジョイントおよび壁際取合いは1mm程度の間隙をあけて張る。

(床鳴り防止)

フロア釘 45mm@300とする。

e . 化粧フロア張り（洗面所）

根太に接着剤を塗布し、根太と直角に張る。

フロア釘 38 mmを雄実上より隠し釘打ちとする。

設備配管と床板との間はクリアランスを必ずとる。

床板張上がり後、体重をかけて踏んでみて、床鳴りしていないことを確認する。

2) 軸 組

壁厚が 60mm と薄いので

頭つなぎ材、土台材とも：

間柱取付けは 303 ピッチ、

電線管などの横配管は絶対

胴縁取付け：FL + 1 , 800

胴縁補強：各所建具戸当り

する。（位置は施工図によ

は十分留意する。

ーがけ、曲がりのない乾燥材を使用。

）おの釘 2 本打ちとする。

入れる。釘 2 本たすき打ち。

オル掛け、分電盤取付け部は、胴縁補強

3) 造作材取付

a . サッシ額縁

アングルピースとの隙間

アングルピースと接する

仕口は洋間はトメ、和室

サッシビスの曲がりおよ

回塗りとする（塗装工事）

にする。

b . 出入口枠および無目枠の取

固定金物を用いて固定す

取付け精度は ± 1 . 5mm

クリをつける。

c . 押入造作

中段の枠は、棚板じゃく

棚パネルの後枠は、上下

固定は前面より釘打ち込みする。

d . 天井回り縁

出入隅は止めとする。

壁ボードおよび天井ボー

e . 付鴨居・畳み寄せ等

付け鴨居は接着剤および

タタミ寄せの取付けは、450mm 以内に見え隠れからのつぶし釘打ちとする。

戸当りは接着剤を使用し、ステンレス釘打ち間隔 240mm とする。

砥の粉を詰める。

f . 付長押（コンクリート面）

木レンガをコンクリート面に張付け、そこへ付長押をパネル釘止めとする。

仕上げ代のない部分は、タル栓穴あけの上、取付ける。

g . 巾木

壁ボード張り後に取付ける。

出隅はトメとする。

4) ボード張り

a . 壁ボード張り

土台～頭継ぎまで1枚も

ボードは突付け張りとする。

両面プasterボード張り

ボード釘を用い、接着剤

釘頭がボード面より0.5

目立った目違いが生じない

隅部、天井取合い、木枠

b . 天井ボード張り（和室）

ウラ棧付き既製化粧石膏

“手違いカスガイ”を用い

使用し、中間ジョイントをつくらない。

位置をずらす。

に打込む。

調整しながら張る。

ない。

する。

(1 0) 残材処理

残材は、作業所の指定場所

(1 1) 養生

造作材の養生は、次工程の作

固定のためのテープは、のり

（紙テープ、セロテープは禁

なくても施工できるようにする。

テープとする。

(1 2) 自主検査および手直し

a . 工事中および完了後に木

b . チェックリストに基づき

を行ない結果を係員に提出する。

に手直しを行なう。

<https://www.sekouya.com>